

1:1 幸いなことよ。悪者のはかりごとによらず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかった、その人。1:2 まことに、その人は【主】のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。1:3 その人は、水路のそばに植わった木のように。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。1:4 悪者は、それとは違い、まさしく、風が吹き飛ばすもみがらのようだ。1:5 それゆえ、悪者は、さばきの中に立ちおおせず、罪人は、正しい者のつどいに立てない。1:6 まことに、【主】は、正しい者の道を知っておられる。しかし、悪者の道は滅びうせる。

はじめに

今日から、新シリーズ説教「詩篇」が始まります。

このシリーズを詩篇 1 と呼ぶことにします。

詩篇全篇をひとつひとつ学ぶことはしませんが、詩篇がなぜ聖書に含まれているのか、また神が詩篇をとおして教えようとなさっていることを理解するのに十分な学びとしていきます。

では、詩篇 1 篇の学びを始める前に、詩篇について基本的な事柄をお話ししましょう。

1. **「詩篇」という言葉の意味。** ヘブル語では、「賛美の書」と呼ばれています。そして、旧約聖書のギリシャ語版では、「弦楽器に合わせて歌う歌」と呼ばれています。詩篇が歌うために書かれたものであることは明らかです。
2. **「詩篇の著者。」** 詩篇の著者が明記されているのは、全体の 3 分の 2 のみです。ダビデ王は、73 の詩篇を書きました。ダビデはイスラエルの愛すべき「歌うたい」でした。また、賛美を歌う者を含む神殿での働きのもとめ役でもありました。
(サムエル第二 23 : 1、歴代誌第一 15 : 16、16 : 7、25 : 1)
「コラの子たち」が 11 の詩篇を書きました。彼らは、神殿で音楽をもって仕える者でした。
アサフは 12 の詩篇、ソロモン王は 2 つ、エタンがひとつ、そしてモーセもひとつ書いています。
3. **詩篇はヘブル語の詩歌。** ヘブル語の詩歌は、西欧や日本の詩とはまったく異なります。ヘブル語の詩は、何らかの教えをわかりやすく教えるためのものです。ひとつの教えを違ったかたちで何度も繰り返します。こういう表現でわかりにくければ、違う言い方をすればわかるでしょう、ということです。
詩篇は、5 巻に分けることができます。
それぞれの巻の冒頭の 3 篇目までは最後に「アーメン」が 2 度繰り返され、4 篇目は「アーメン」と「ハレルヤ」で終わり、最後の詩篇は「ハレルヤ」で全巻を締めくくります。
(詩篇 150 篇)
4. **詩篇の価値。** 新約聖書では、詩篇が 400 回以上引用または言及されています。イエスもよく、詩篇の言葉を引用なさいました。
(マタイ 5 : 5=詩篇 37 : 11)
エルサレムの初代教会が新たな使徒を選んだとき、神は詩篇から導きをお与えになりました。(使徒 1 : 15=詩篇 69 : 25、108 : 9)
初代教会は、詩篇を教えに取り入れ、迫害の時に励ましを得ました。(使徒 2 : 31=詩篇 16 : 10、使徒 4 : 23-31=詩篇 2)
詩篇から選んで賛美を歌うのは、初代教会の礼拝の一部でした。
(エペソ 5 : 19、コロサイ 3 : 16、コリント第一 14 : 26)
詩篇から、聖書の歴史を学ぶことができます。創造、洪水、ヨセフ、出エジプト、荒野でさまよった期間、イスラエルが捕囚となったこと、これらはすべて、詩篇に記されています。
けれども、現代の私たちにとって詩篇が大きな価値をもつのは、詩篇が、神について語るからです。また、神と被造物の関係について語るからです。世界中の人々、イスラエル人、そして、神を信じる人々との関係についてです。

詩篇の中で、神は優しい心を持つ力強いお方として示されています。
また、約束を守るお方、ご自身の民を愛し面倒を見てくださるお方として示されています。
詩篇は、神に従う人々の心も明かしてくれます。
その信仰、疑念、勝利、挫折、そして未来への希望を明かします。
詩篇では、あらゆる状況に置かれたさまざまな人々が神に向かって叫びます。
神を賛美したり、罪を告白したり、もっと深く神を礼拝したいと願い求めます。
詩篇は、真心をもって神を求めること、神に真実を告白すること、そして神を礼拝することを教えてくれます。そして、そうする動機は、神が何かを与えてくださるからではなく、神が神であるからだということも教えてくれます。

では、詩篇 1 篇の学びに入りましょう。

詩篇 1 篇は、詩篇への入口です。これは「知恵」の詩篇のひとつです。

その焦点は神のみことばです。

この詩篇は、神のみことばに思いを巡らして従う人に祝福があると語ります。

一方、神のみことばに敵対する人にはさばきがあると語ります。

この詩篇を今日は以下の 3 つに分けて学んでいきましょう。

1. 神から祝福を受ける人について
2. 周囲の人にとって祝福となる人について
3. 神からの祝福を必要としているけれども、現時点ではその祝福が与えられないでいる人について

1. 神から祝福を受ける人 (1-2 節)

日本の梅雨時期には雨がたくさん降ります。

梅雨の土砂降りの日でも、お茶碗を下に向けて外に出しておいても、雨はそこにたまりません。

今日の多くの人の状態も同じことです。

神は、ご自身の民に祝福を注ごうとしておられますが、残念ながら、神の祝福を受けるにふさわしい姿勢でない人がいます。

そして、神が与えたいと望んでくださっている祝福を逃してしまいます。

神の創造された世界には秩序があり、その秩序に逆らえばそれなりの結果が伴います。

神はイスラエルの民を世界への証として区別されました。そのとき、彼らが従えば祝福され、逆らえば裁かれると約束なさいました。

この教えは、レビ記 26 章と申命記 28 章に詳しく明記されています。

同じように、私たちも神の祝福を受けたいなら、その祝福を受ける条件を満たさなければなりません。

1 節には、神の祝福を受けなければ、罪深い人とのかかわりを避けなければならないとあります。

1 節が語るのは、信仰を妥協してこの世に調子を合わせるようにという巧みな誘惑についてです。

悪魔は、神の祝福から信徒を迷いさせようとします。そのやり方は、徐々に気づかないように、魅力的なものへと誘い込もうとします。

悪者と歩むとは、悪者と時間を過ごすことです。感化されていないと自分では思うかもしれませんが、どうでしょう。

罪人の道に立つとは、その人たちと多くの時間をともに過ごし、彼らの考え方に耳を傾け、その考え方を検討している状態です。

その人たちの座に着くとは、その人たちのアドバイスや教えを受け入れ、影響を受けることです。

神は常に、イスラエルの民をとおしてこの世を祝福しようとなさってきました。

彼らは、区別された唯一の民であるべき存在でした。

ほかの民族の中に暮らしながら、その悪影響を受けないでいるべきでした。

(民数記 23 : 9、出エジプト 19 : 5-6、申命記 32 : 8-10)

新約聖書の教えも同じです。

ヨハネ 17 : 11-17

17:11 わたしはもう世になくなります。彼らは世にいますが、わたしはあなたのみもとにまいます。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らが一つとなるためです。 **17:12** わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。 **17:13** わたしは今みもとにまいます。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです。 **17:14** わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。 **17:15** 彼らをこの世から取り去ってくださるようにといいのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。 **17:16** わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。 **17:17** 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。

イエスが弟子たちのために祈ったことのひとつが、世間の悪影響から守られることでした。

ヨハネ第一 2 : 15-17

2:15 世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。 **2:16** すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。 **2:17** 世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行う者は、いつまでもながらえます。

ヤコブ 4:4 貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。

適用

私たちの生き方に影響を与え、決断を左右する人や物事は何でしょう。

それは、聖書の神とみことばでしょうか。聖霊に満たされた敬虔な人でしょうか。

それとも、聖書の神に従っていない人でしょうか。みことばを読まず、聖霊にも満たされていない人でしょうか。

聖書の神の祝福をいただきたいなら、神の教えに従わなければなりません。

イエスはおっしゃいました。

「**7:13** 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。 **7:14** いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。」 (マタイ 7 : 13-14)

イエスは、この世の物事で頭や心がいっぱいになることの危険性を示すために、あるたとえ話をされました。

ルカ 12 : 16-21

12:16 それから人々にたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作であった。 **12:17** そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』 **12:18** そして言った。『どうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。 **12:19** そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。』 **12:20** しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』 **12:21** 自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。」

この愚かな金持ちのようにならないでください。お会いできる間に神を求めましょう。

では次に、周囲の人にとって祝福となる人について学びましょう。

2. 周囲の人にとって祝福となる人 (3 節)

神は、私たちがだれかの祝福となるために、私たちに祝福してくださいます。

祝福を誰にも分かち合わずに自分たちのところにとどめておこなら、与えられた物事が与えてくださったお方よりも大事になってしまい、偶像礼拝へとつながります。

私たちは、神の祝福を周囲の人に届ける管となるべきです。

祝福を受けるのはうれしいことですが、祝福となるのはさらに喜ばしいことです。

使徒 20 : 35 には、「…主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われた…」とあります。

3 節は、周囲の人にとって祝福となる人を「水路のそばに植わった木」にたとえます。

聖書には、木のたとえが多くあります。これは、王国と個人を象徴するしるしです。

バラムは、イスラエルの民が木の生い茂る「川辺の園」のようだと言います。(民数記 24 : 6)

エゼキエル 17:24 このとき、野のすべての木は、【主】であるわたしが、高い木を低くし、低い木を高くし、緑の木を枯らし、枯れ木に芽を出させることを知るようになる。【主】であるわたしが語り、わたしが行く。」

ここで、枯れ木に芽を出させるのが神であることに注目しましょう。

木の一番大事な部分は、目に見えない根の部分です。その根から地中の水分や養分を取り入れます。

神が、この個所から私たちに学ぶよう望んでおられるのは、信徒の人生のかなめとなる部分が「霊的な根の組織」だということです。

クリスチャンは、キリストにあって与えられた目に見えない栄養素を得ることによって、健全な信仰生活を送りつづけます。

エペソ 3 : 14-17

3:14 こういうわけで、私はひざをかがめて、 3:15 天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名の元である父の前に祈ります。 3:16 どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。 3:17 こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、

パウロはエペソの教会にこの手紙を書いたとき、「根ざす」「基礎を置く」という言葉を使いました。詩篇 1 : 3 で詩篇の著者が示す原則を念頭に置いてのことでしょう。

ヨハネ 15 : 1-9 には、同じ原則が見られます。ここでは、「キリストにとどまる」という表現が使われています。

ヨハネ 15 : 1-9

15:1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。 15:2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。 15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことによって、もうきよいのです。 15:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。 15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もする

ことができないからです。15:6 だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。15:8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。

詩篇 1 篇 3 節で、木は水路のそばに植わっています。
聖書では、飲み水は神の聖霊を示し、洗う水は神のみことばの働きを示します。

ヨハネ 7 : 37-39

7:37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」7:39 これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。

コリント第一 10:4 みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです。

エペソ 5 : 25-26

5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。5:26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

水を求めて渴くことは、神を求めることの象徴です。

黙示録 22:17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください」と言いなさい。渴く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。

川はたいがい、神の霊的な祝福とご自身の民への助けをあらわします。
それが示す考え方は、私たちが自分自身を養い自立することはできない、というものです。
私たちはキリストに根ざし、神の霊の力に頼らなければならないということです。
どうすれば、そうできるのでしょうか。

a) 神のみことばを黙想する。

黙想とは、聖書のみことばを日常生活で実践することを前提として考えることです。
神のみことばによって耐えなければなりません。

b) 祈り、そして祈り。

私たちの生活は、祈りに満たされていなければなりません。イエスに、人生で起こるすべての出来事にかかわっていただく必要があります。

c) キリストを信じる誠実な信徒との交わり。

箴言 27:17 鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。

d) 聖霊を悲しませたときにイエスに謝罪する。

ヨハネ第一 1 : 8-9

1:8 もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

イエスに近づけば近づくほど、謝らなければならないことが増えます。

これらの4つの課題を実践すれば、周囲の人にとって大きな祝福となれるでしょう。また、信仰生活を新鮮に保つことができ、神に仕えるために必要なものがすべて与えられます。

では、4-6節の学びへと進みましょう。

3. 祝福を必要としている人 (4-6節)

4-6節には、神からの祝福を必要としているのに、現状ではそれを受けていない人が描かれています。

その人の生き方が変わらない限り、祝福ではなく神のさばきがくだるでしょう。

聖書は、イエスを受け入れて愛することをしていない人をさまざまなかたちで描きます。

ここでは、詩篇の著者はそういう人を「もみがら」にととえています。

まず、「もみがら」という言葉を理解する必要があります。

「もみがら」は、麦などの穀物を食べる前に落とされる外側の皮のことです。

木にとえられた正しい人とは対照的で、罪深い人は、死んでいて根がなく、風に吹かれて、火で焼かれる運命です。

もみがらには価値はありません。

穀物が脱穀されると、もみがらは吹き飛ばされ、残ったものは火で焼かれます。

覚えておかなければならないことは、もみがらは穀物のすぐそばにあるのに、最後にはそのふたつは分けられて、もみがらは吹き飛ばされるか焼かれるかなのです。

しかし、そうになってしまうまでは、その人たちに証し、イエス・キリストのもとへ連れていくチャンスがあります。

そのような人たちには祝福が必要です。その人たちが人生最大の祝福であるイエス・キリストによる救いを受け取るチャンスに与るきっかけを与えられるのは、私たちだけかもしれません。

6節には、「【主】は、正しい者の道を知っておられる。」とあります。

この同じヘブル語の言葉がアモス3:2で使われています。それは、深く親しい関係を指します。

ユダヤ教の聖書では、アモス3:2の前半が次のように訳されています。「わたしは、地上のすべての部族からあなたがただけを選び出した…」

神は、イエス・キリストを信じる信仰によって神の子とされた人々をご存知です。

そして、神の子どもたちが神だけに心と思いを向けるなら、完全な平安のうちに守ってくださいます。

ペテロ第一 5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

勧めと適用

私たちは、自らの救い主としてイエス・キリストを受け入れ、愛しているでしょうか。

もしそうなら、神に祝福されていますか。

もしそうなら、罪深い人とともに過ごさず、神と神のみことばに思いをとどめるようにという詩篇の著者の助言に従っているからです。

聖書の神の祝福を受けたいのに受けていないと感じているなら、お伝えします。

イエス・キリストを自らの救い主として受け入れる必要があります。

自分の罪を知り、神の愛を知る必要があります。神は、私たちの罪の代価としてご自身の御子をささげるために遣わされました。それほどに私たちを愛しておられます。

その事実を今日知ることができます。

もし心から神の愛と赦しを求めているなら、必ず見出せます。

礼拝後に祈るために残ってください。